

2023年 9月26日

苫小牧市長
岩倉 博文 様

苫小牧港の軍港化阻止実行委員会
米軍戦闘機の訓練移転反対苫小牧実行委員会
実行委員長 横山 傑
【公印省略】

日米共同訓練の実施に当たり市民の安全と生活を守るための要請書

貴職が日頃苫小牧市民の安全と福祉の増進、地域経済の発展をめざして取り組んでいることに敬意を表します。

さて、9月26日(火)から10月4日(水)にかけて、「米軍再編に係る三沢飛行場から千歳基地への訓練移転」として、日米共同訓練が実施されることが9月4日(月)に防衛省より発表されました。9月20日(水)に追加発表された「三沢対地射爆撃場」を使用する「空対地射爆撃訓練」については、苫小牧市だけに関して言えば大きな影響がないのかもしれませんが、「戦闘機戦闘訓練」については、「北海道西方空域」も訓練空域に指定されている以上、騒音などの被害が当市にも及ぶことが十分に懸念されます。

また、9月29日(金)には、「オリエントシールド23」において使用した機材を引き上げるためとして、米艦船「USAV CALABOZA」の苫小牧港への寄港及び岸壁の使用が予定されています。たしかに同船は汎用揚陸艇ですから核兵器を搭載している可能性はないのかもしれませんが、苫小牧市は2002年(平成14年)に「苫小牧市非核平和都市条例」を制定しており、恒久平和と核兵器のない平和の実現に向け努力することを謳う苫小牧市の港湾施設が軍事利用されることは決して好ましいことではありません。軍艦の入港が当たり前のことになってしまえば、条例の規定が空洞化されていくことにつながるのではないかと懸念を抱かずにはいられません。たしかに港湾法の規定からは市として入港すること自体を拒否することは難しいのかもしれませんが、しかし、民間港の軍事利用に対し懸念を表明すること自体を禁じる法律はないはずで

す。ロシアによるウクライナ侵略により喚起された国民の不安を悪用するかのように、軍事費の倍増などの軍拡政策が改憲推進の立場に立つ岸田政権により進められています。ゴールなき軍拡競争に日本が巻きこまれていく危険性が高まりつつあることに私たちは強い危機感を持っています。戦争の惨禍を二度と繰り返さないためにも、今私たちには、国の政策に盲目に追随するのではなく、批判的にそれを検証していく姿勢が求められているのではないのでしょうか。

以上の趣旨から、貴職に対し下記の項目を要請しますので、ご多用の中お手数をおかけしますが、速やかにご回答下さるようお願いいたします。

以上

記

1. 「戦闘機戦闘訓練」と「空対地射爆撃訓練」の実施に当たり、米軍機の苫小牧上空の飛行予定を明らかにさせることを防衛施設局に求め、市街地上空の飛行及び低空飛行と深夜・早朝の飛行を行わせないように申し入れ、その内容をすみやかに苫小牧市民に公表してください。
2. 米軍との訓練に関連し事故等が発生した場合や騒音等の被害が発生した場合、直ちに市民に公表し、対策・対応を速やかに行ってください。
3. 「非核平和都市条例」を有する苫小牧市の東西の港は商業港であり、軍事利用は望ましいことではないということを、市長は市民を代表する立場として機会を捉え表明してください。
4. 岸壁の利用調整について米艦船を優先して行うことはないことを明示してください。
5. 米艦船が入港する場合は、安全の確保に可能な限り努めるよう関係機関に要請するとともに、関連する情報を可能な限り市民に適切な形で提供してください。